

## 意見の概要および市の考え方

No	意見の概要	意見数	市の考え方
第3章 人権・福祉・安全			
1	<p>P67 3-4-2 障害者(児)福祉の推進</p> <p>「めざす成果」に対して、指標が「新規就労者数」と「相談支援事業所数」だけでは不十分。障害者(児)が安心して過ごせる場所が非常に少ない現状を改善するため、居場所の確保(数)を指標に盛り込むべきである。</p>	1件	<p>指標は主だったもののみを掲載しておりますことを、ご理解願います。</p> <p>また、総合計画に関連する個別計画の「ひこね障害者まちづくりプラン(H24~29年度)」では、『湖東福祉圏域内の短期入所のベッド数』や『湖東福祉圏域内の放課後等デイサービスおよび日中一時支援事業の実施事業所数』を数値目標に掲げて、障害者(児)の安心して過ごせる場所の確保に向けて取組を進めております。</p>
第4章 生涯学習・産業			
2	<p>P127 4-3-1 観光の振興</p> <p>【成果の達成に向けて・・・】では、全て「期待します」で結ばれています。市民は、市に対して何ができるのかを考えてほしいという意図か。目標に対して、「市役所と一緒に、この戦略・手法で始めましょう。」など、「呼び水」を入れる必要を感じる。</p>	1件	<p>【現状と課題】では現状を分析し、課題を整理しています。その上で、【めざす成果】を示し、「めざす姿」を市民の皆さんと共有できるように記載しています。</p> <p>次に、めざす成果の達成状況を数値で測れるよう【指標】を設けています。指標に掲げる目標値を達成するため、所管課を明記し、【市の取組方向】を記載しています。</p> <p>また、【成果の達成に向けて】は、ご指摘いただいた通り、市民の皆さんや地域等にご協力いただきたいことを記載しています。行政のみのまちづくりではなく、地域の自主的な取組も加え、官民協働のまちづくりができるように記載していますが、市民の皆さんに伝わるよう、個別計画等でも行政の戦略・手法等は記載しておりますので、ご理解いただきますようお願い申し上げます。</p>
3	<p>P127 4-3-1 観光の振興</p>	1件	<p>世界遺産登録の申請は、日本政府が行うものであり、彦根市の一存では暫</p>

	<p>世界遺産登録は姫路城の登録があるため難しい。敢えて「登録候補」から外し、国宝5城を観光の目玉として取り組んではどうか。</p>		<p>定リストからの取り下げはできません。現在、世界文化遺産の登録を担当している文化庁や滋賀県と協議を重ねながら、市として彦根城の世界遺産登録に向けての作業を継続しているところです。</p> <p>なお、国宝に指定された近世城郭の観光に係る連携については「国宝城郭都市観光協議会」を設置し、5市で協力して広報等に努めています。</p>
4	<p>P127 4-3-1 観光の振興</p> <p>現在、彦根城の国宝の認定書は、天守閣の「日の当たらない、照明設備もない所」に“ただ飾っている”だけです。入口に、堂々と掲げてはどうか。</p>	1件	<p>天守の入口は、繁忙期には長い行列ができるなど大変混雑するため、この場所で立ち止まって認定書を見る人による停滞が発生することが予想されます。このため、現状の天守最上階は、見学者が立ち止まった場合でも見学者の流れに影響が少なく、また、併せて天守に関する説明板も設置していることから、現状掲示が望ましいと考えます。</p>
5	<p>P127 4-3-1 観光の振興</p> <p>観光政策は、切り口によって見方が変わる。市役所、観光事業者、大学の先生だけでなく、各地の観光地を観て来た市民を交えて議論・方向性を出す機会をもってはどうか。</p>	1件	<p>昨年度策定した「彦根市観光振興計画」の基本施策に「市民と来訪者の交流促進と観光振興に対する意識の醸成」を掲げ、市民をはじめ多様な主体を巻き込んだ観光振興を図ることとしておりますので、今後、様々な意見を参考にしていまいります。</p>
6	<p>P127 4-3-1 観光の振興</p> <p>5～10年の期間で、内容ごとに優先順位を決め歴史遺産・資産・発信に係るマスタープランを作成すべきと考える。</p>	1件	<p>ご意見の内容については、「彦根市歴史的風致維持向上計画」により本市の歴史的風致の特徴を示すとともに、更に彦根城を中心とした城下町地区を重点区域として定め、歴史資産を後世に伝える取組を行っています。</p>
第5章 次世代育成・市民交流			
7	<p>P142 5-1-3 小学校・中学校教育の充実</p> <p>不登校を「不適応」と決めつけることに、偏りを感じる。「適応」させるための支援で</p>	1件	<p>滋賀県教育委員会の「スクールソーシャルワーカー活用事業実施要項」の中で、「いじめ・不登校をはじめとする学校不適応」という表現がされてお</p>

	<p>はなく、児童生徒の抱える課題や気持ちに共感し、豊かな人間性を育むための環境を一緒につくっていくことが重要であり、表現を改める必要があると考える。</p>		<p>り、引用しておりましたが、ご意見をふまえ、「学校不適応」という表現を「当該」と改めます。</p>
8	<p>P142 5-1-3 小学校・中学校教育の充実</p> <p>めざす成果は6項目あるが、指標は学力テストや体力テストの数値目標のみであり、これでは総合的な評価ができない。6項目それぞれを評価できる指標を示されたい。</p>	1件	<p>教育委員会は、生涯学習、教育、文化、スポーツ等の幅広い施策を展開しています。教育は、結果が出るまで時間がかかり、その結果も把握しにくい特性から、学校の運営や取組の改善は漸進的なものであることが必要です。学力向上や体力向上も一朝一夕で成し遂げられるものではなく、様々な課題解決のための方策を推進しているところです。これらを教育委員会の他のあらゆる施策につながる糸口となる代表的な取組と捉えておりますので、めざす成果6項目達成の指標を、「児童生徒の基礎・基本的な学習内容の習得状況」と「新体力テスト総合評価平均値」としております。</p>
9	<p>P142 5-1-3 小学校・中学校教育の充実</p> <p>指標にある学力テストの目標値が現状に対して著しく高く設定されている。不当な指導、さらには排斥が行われてしまうのではないかと危惧する。具体的に実現する手法や技術はあるのか。現状を丁寧に分析し、目標値を見直すことを提案する。</p>	1件	<p>平成 27 年度全国学力・学習状況調査におきましては、小学校、中学校すべての調査で全国平均を下回り、最も差が開いた小学校算数の基礎的な内容を問う A 問題では 4.4 ポイントも下回る結果となりました。しかし、この状況を改善するため、彦根市学力向上検討推進委員会で現状打破のための方策を検討し、特に、基礎・基本の定着を図るための取組として、工夫のある少人数指導や基礎学力確認テストに基づく個別指導、家庭学習の習慣化に取り組んでおります。本調査は新しい学力観に基づく次世代型の学力が必要であり、本市の子どもたちには、答えを導き出すための道筋を分かりやすく伝えるための表現力に課題があるという分析から、課題解決に向け</p>

		た授業改善に取り組んでいるところ です。まずは、全国と同程度の平均正 答率をめざし、中長期的には、学力上 位県と同程度の平均正答率をめざし たいと考え目標を設定しています。
--	--	--